

2023

令和5年2月発行

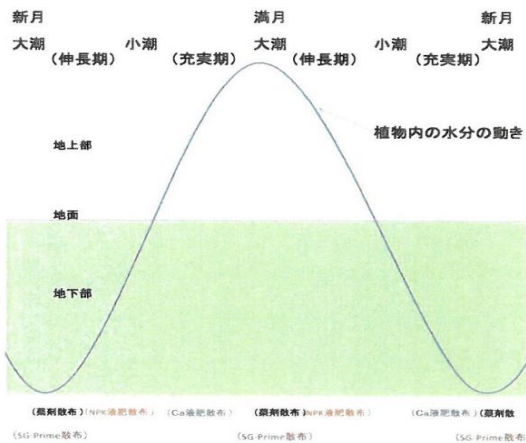
きりしまのタネや通信

No.119

発行/有限会社 国分種苗 899-4332 霧島市国分中央3-23-8 TEL 0995-45-0275(代表)
URL <http://www.kokubutane.com/> E-mail kokubutane@magma.jp
(ブログ/きりしまのタネヤのひとりごと)

農事暦の解説

植物内の水分の動きと生育のリズム



令和4年6月 (有)国分種苗

農事暦を作るきっかけは、農薬散布のタイミングに新月の頃と満月の頃を目安にカレンダーに印をつけて一部の農家さんに渡したところ、お茶栽培の農家さんから農薬の効果がよくなったとの話から色々調べ始めました。中でも『月と農業』という本の中で、南米のインディオの栽培管理について大変興味を持ち今に至っています。

農業を始めるにあたりいつ薬剤散布をしたらいいか？いつ追肥をしたらいいか？いつ収穫したら長く貯蔵できるか？などの目安になればと、初心者でも60点はとれる栽培管理、あとはよく観察して70点、80点とより良いものが生産できる目当てになればと思っています。

持論ですが、最初の生物が発生した時よりもはるか昔から地球と月の間では引力が存在していました。全ての生物はこの引力の影響下の中で進化しながら現在に至っています。

そこで、月の満ち欠けに注目すると必然的に潮の動きに着目しました。植物はおおむね次のような生育パターンで生長していきます。

小潮から大潮に向かう時期が細胞の分裂が盛んな時期、大潮から小潮に向かう時期が細胞を伸長させる時期です。また、新月から満月、満月から次の新月までが旧暦の1ヶ月になります。

新月の頃と満月の頃が大潮になるので、新月からの潮の動きは、大潮から小潮と小潮から大潮で満月の頃となり、この大潮から小潮と小潮から大潮で新月の頃となります。つまり細胞が伸長する時期、細胞の分裂が盛んな時期が、旧暦の1ヶ月にそれぞれ2回あることとなります。

そこで細胞が伸長する時期を伸長期、細胞の分裂が盛んな時期を充実期と呼び、伸長期の中潮の頃に一般のN、P、Kの液肥散布、充実期には、細胞壁の主成分のペクチン酸カルシウムが順調に作られなければならないので、この時期に微量元素、特にカルシウムを適宜与えることはカルシウム欠乏を予防することになります。

充実期中の中潮の頃にはカルシウム主体の微量元素剤を散布します。

最後に植物内の水分の動きについて説明します。

何十年も前のことですが、年配の方から『闇夜に木を切れ』と教わったことがあり、その時は意味がよくわからなかったのですが、『植物内の水分の動きと生育のリズム』を参照してもらうと、新月の頃が余分な水分が地下部にたまりやすくなります。つまり、この場合の闇夜とは新月の頃で地上部に余分な水がないので、このタイミングで木を切ると乾燥しやすく虫も付きにくいのだと理解しました。

新月から満月に向かうにつれて次第に地上部に水分が移動し満月の頃が最大になり、そして満月から新月に向かうにつれて次第に地下部に水分が移動し、これらを絶えず繰り返しています。

そこで見方を変えると新月の頃は地下部に水分が多くありますからダイコン、ニンジンなどの根菜類やジャガイモ、サツマイモなどは重量が乗り、地上部は余分な水分がないので南瓜やキャベツ柑橘類など一時貯蔵するものは貯蔵中の腐敗が軽減されます。また、満月の頃は地上部に水分が多くありますから果菜類や葉菜類は重量が乗り、一方地下部に余分な水分がないので、すぐに出荷しないサツマイモやジャガイモなどは貯蔵中の腐敗が軽減されます。

実際は、収穫時期と植物内の水分のタイミングがぴったり合わせての収穫は、なかなか難しいかもしれませんが、一時貯蔵が必要なものには歩留まりを考慮すると有効だと思います。